

令和3年度 第1回 安曇野市総合教育会議 会議録

日 時 令和3年12月22日（水）午前10時から正午

場 所 安曇野市役所 4階 大会議室

○出席者

市 長	太田 寛	教育長	橋渡 勝也
教育長職務代理者	須澤 真広	教育委員	横内 理恵子
教育委員	二村 美智子	教育委員	羽田野 賢二

○補助のため出席する者

教育部長	平林 洋一	学校教育課長	沖 雅彦
生涯学習課長	深澤 与志章	文化課長	山下 泰永
学校教育課学校給食センター長		小笠原 正明	

○事務局出席者

学校教育課教育総務係長	矢花 幸恵
-------------	-------

○傍聴者

報道機関	1名	傍聴人	4名
------	----	-----	----

◎開 会

教育部長 それでは、定刻となりましたので、ただ今から令和3年度第1回総合教育会議を開会いたします。私は、教育部長の平林でございますが、本日の進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日の総合教育会議は公開として行いますので、よろしくお願いいたします。

◎市長挨拶

教育部長 それでは、初めに太田市長から、ごあいさつをお願いいたします。

市長 おはようございます。安曇野市長の太田でございます。本年の第一回目の安曇野市総合教育会議を開催いたしましたところ、教育委員の皆様ご出席を賜りまして厚く御礼を申し上げます。また、平素から市の教育行政につきましてもご尽力を賜ったこと、重ねてお礼申し上げたいと存じます。

私、公約の中で「住んで良かった豊かな安曇野」というのをテーマにしました。子どものころから地域のことを知り、愛着を、そして誇りを持てるような教育の充実に期待するところでございます。

また、産学官連携いたしまして、子どもたちが地域を知り、地域の人と触れ合い、地域の未来を考えるとといった取組が必要だと考えているところでございます。

また、安曇野らしい教育の構築というのも考えておりまして、自然環境と調和した教育環境を整備するとともに、安曇野の歴史や文化や、あるいは先人の皆様、そういうことを学ぶ教育を進めていただければと考えております。

また、安曇野型食育ということも提唱しておりまして、農業現場、あるいは加工調理、そして、給食、さらにはその廃棄物の処理まで、そうした一環したものを子どもたちと一緒に学んでいくという形を保てたらと思っております。

さらに、市内の美術館、博物館、こういうところと連携した小・中学校の情操教育、こういったものを考えていければという具合に思っております。

今、市の教育委員会では、活力ある学校の検討に資するために将来構想案を策定し、パブリックコメントと市民説明会を開催するという具合に承知しております。

本日は、その教育委員の皆様率直なご意見やご提言いただきまして、議論を深めてまいりたいと思います。是非、よろしくお願いいたします。

冒頭の挨拶とさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

教育部長 ありがとうございました。

◎教育長挨拶

教育部長 続きまして、教育委員会を代表し、橋渡教育長からご挨拶をお願いいたします。

教育長 本年度第1回安曇野市総合教育会議の開催に当たりまして、教育委員会を代表してご挨拶申し上げます。

太田市長におかれましては、平素から市の教育行政に多大なご尽力を賜り、また、本日の総合教育会議を開催していただきましたことに感謝とお礼を申し上げます。

また、お足元の悪い中、傍聴者の皆様方、ご参加ありがとうございます。

さて、今般の安曇野市議会12月定例会では、代表質問及び一般質問で、教育関連の質問が多数ございました。市民や市議会議員の皆様の教育への関心が高いことを強く感じますとともに、また、期待も大きいものと受け止めております。市長からも、子どもの育ちや学びについて、今回の総合教育会議で大いに議論を深めたいというご発言もございました。

さて、本日の総合会議におきましては、“未来を拓くたくましい安曇野の子ども”を目指す安曇野市立小・中学校の将来構想の策定と、それを踏まえた今後の安曇野の特色を生かした教育の在り方についてを協議していただくこととなりました。

教育委員の皆様とともに、市民の方々からのご意見もお聞きしながら、時間をかけて丁寧に、この策定に向けて進めてまいってきたわけでございますけれども、これが終着点ではなく、新たな出発点になると、このように捉えております。そんな意味でも、本日のこの会議が有意義なものになるよう願っておるところでございます。

では、皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

教育部長 ありがとうございました。

◎“未来を拓くたくましい安曇野の子ども”を目指す安曇野市立小・中学校将来構想の策定について

教育部長 それでは、4番の議事に入らせていただきます。

議事につきましては、恐れ入りますが、太田市長より進行をお願いいたします。

市長 それでは、議事進行をいたします。

最初に、（１）でございます。“未来を拓くたくましい安曇野の子ども”を目指す安曇野市立小・中学校将来構想の策定につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

教育部長 それでは、資料の説明は各担当からさせます。

学校教育課長 資料１に基づきまして、それから、前のスライドのほうを使いまして、ご説明申し上げます。

“未来を拓くたくましい安曇野の子ども”を目指す安曇野市立小・中学校将来構想（案）について、資料１により説明。

市長 ただいま、事務局から説明がございました。“未来を拓くたくましい安曇野の子ども”を目指す安曇野市立小・中学校将来構想、このことでございます。

今の説明を聞きまして、あるいは、その説明以外のところでの皆様のお考えにつきまして、いただければありがたいと思いますので、是非、皆様、それぞれのお立場でのご意見を賜りたいと思います。よろしくをお願いいたします。

羽田野委員 一つは、質問なんですけれども、９ページ、１０ページのところで、各学校の児童生徒数の予測が出ているんですけれども、中学校については令和１３年、要するに１０年後までの予測が出ていますが、小学校の予測、１０年後の予測、令和１３年度の予測というのは出ていますか。

学校教育課長 これは、予測をした段階で、現在のゼロ歳児が小学校へ上がるという令和７年ということで予測をしている中で、中学校のほうだけは１３年までの予測ができるというデータがあるものですから、そんな関係で、この資料は作成してございます。

羽田野委員 ありがとうございます。

教育部長 補足を少しさせていただきます。

これは、いわゆる自然動態と言われている、現在の出生数のみに基づいて推測をしているものでございまして、いわゆる外から入ってこられる方等につきましては、加味されていないということをご理解いただければと思います。

市長 すみません。私から質問させていただきます。

２０ページのところに、安曇野市が目指す小中一貫教育についての図式というか、あるんですけれども、この穂高西小からの卒業生が東中、西中の両方に分かれているのは、何か人数の関係でどうしてもそうなるということですか。

教育部長 穂高西小の卒業生は、距離との関係でございまして、西中に行かれる方と東中で分

かれていたのは、それぞれの地域によって、現在、通学区域が異なっているという状況でございます。

近い方は西中、東中のほうが近い方は東中に進まれているというような状況でございます。

市長 その件について、私、ちょっと、市民の方から聞かれたことがあって、何か、道を隔てた両側だけで、もう中学が違ふと。小学校は一緒に行ったのに、中学は変わっちゃうというのは、どうなんですか。

教育部長 制度といたしましては、これまでの子どもたちのつながりと事情があれば、この指定されたものに関わらず、学校を変えるということは可能でございます。

市長のおっしゃられたように、本当に道一本隔てて、東と西というような状況でございます。これは、旧穂高町の時代から行われているというふうに理解しておりますけれども、もちろん、その辺の個別的な事情等も少しお聞きをしながら、検討すべきところがあれば、検討してまいりたいというふうに思います。

市長 あと、そことちょっと同じ図なんですけれども、小中一貫教育といった場合に、やはり、一般の方の持つイメージは、連帯した小学校、中学校、あるいは、同じ校舎の中での一貫教育。ここでは施設分離型ということで、小学校と中学校、それぞれ結びつけて一貫教育という流れをつくるけれども、こういう例というのは他にもあるんですか。他といいますと、他の自治体でも。

教育指導室長 県内でも複数校、校舎は分かれています、小中一貫型、施設分離型の小中一貫教育を進めているところがあります。

例としまして、ちょっと自治体が、設置者が違うというところではあるんですけれども、両小野小学校、両小野中学校、それぞれ設置者も違うんですけれども、校舎が離れております。そうした中で、小中一貫教育ということでやっております。

そのほか、複数、ほかの自治体でも実施しているというふうに理解しています。

市長 これは、じゃ、カリキュラムは、小学校、中学校、9年間で考えて、それぞれを小学校と中学校で分担するみたいな感じなんですか。

教育指導室長 9年間で子どもたちを育てるところが大きな目標でありまして、小学校の先生方でも、中学校を卒業する姿には責任を持つという。言い方は適切かどうか分かりませんが、そういった大きな願いに基づいてやっています。ですので、校舎は別々で、校長も別、それぞれにいるという学校もあるわけなんですけれども、大きなカリキュラム、または指導の内容等も含めまして、9年間のカリキュラム編成をしているというふうに認識をし

ております。

市長 私ばかりで申し訳ないんですが、質問で申し訳ございません。

18ページのところに、新たに学校運営協議会を設けるということで、「学校運営協議会の主な役割」という中で、1番が「校長が作成する学校運営の基本方針を承認する」というところがあるんですけども、承認するというのが結果であって、基本方針について議論して承認するという意味ではないかと思うんですけども、何か、これだと、学校運営協議会の役割というのは、単なる追認みたいなイメージがあって、これから始まる学校運営協議会の主な役割を説明する際に、1番が基本方針を承認するという形であるのは、ちょっと何か違和感を感じるんですが、いかがでしょうか。

教育部長 市長おっしゃられたことはよく分かります。単なる出されたものを追認ということではなくて、議論があって、その上で承認をするということでございますので、この辺の表現は少し改めさせていただければというように思います。

市長 私ばかりではいけないので、ほかの教育委員の皆様から、是非、お願いします。

須澤委員 今、ちょうど市長さんお話しの18ページの学校運営協議会の役割についてですけども、これは、これまでのACSが中学校単位に設置されておまして、ほとんどが、今ご指摘のような、ああ、そうですかという了解の状況だと思います。

今度は、そうではなくて、学校の運営に意見が言えるという役割が出てくるわけです。しかも、学校単位に運営協議会もできますので、ある意味、学校だけが学校の教育課程も含めて全てを決定するのではなくて、地域の皆さんのご意見を尊重して、その意見を取り入れて学校を運営していくという意味で、非常に大きく変わってくると思うんです。

2点目、私は、これについて、これまで検討してきたわけですが、ここにありますように、②にある意見を述べるというところから、今話題に出ております小中一貫教育につきましては、地域の皆さん、つまり、ある意味それを代表する学校運営協議会、このご意見が小中一貫教育を実施する上においては非常に重要であるということと言えます。

3番の教職員の任用に関してが、学校側の一番心配をする範囲ではないかなと私は思うんですけども、要は、決定権は学校側にあるんですけども、意見は言えるというところ、これも大きいんですね。

ですので、これからの、この17校の学校運営は、これによってかなり変わっていくというふうに思っております。

学校教育課長 先ほども、部長のほうで市長のご質問に答弁させていただいたんですが、全般、

補足をさせていただきます。

この学校運営協議会の学校運営の基本方針を承認するという表記でございますが、国の根拠法令になっております地方教育行政の組織及び運営に関する法律、地教行政法と略しておりますが、こちらのほうに、学校運営協議会の規定がございまして、第47条の5の中で、「対象学校の校長は、学校の運営に関して、教育課程の編成、その他、教育委員会規則で定める事項について基本的な方針を作成し、当該対象学校の学校運営協議会の承認を得なければならない」と。この規定をここに表現をしております。

先ほど、部長が申し上げましたとおり、単なる承認ではなくて、熟議をした上での承認という形で考えておりますので、よろしく申し上げます。

市長 要は表現を変えるということでしょうか。

学校教育課長 国の表現をここに表記してございますが、市長のご指摘がございまして、少し熟議というような表現をしたほうが適当かなと。

市長 違いますよね。今、国の言いました法律は、あくまでも校長の主体の文章であって、ここは、学校運営協議会の役割で、学校運営協議会が主語になっていることなんで、当然、表現が変わっていいはずだと思うんですよ。

学校教育課長 はい。

市長 承認という言葉は同じ言葉だけれども、主体がどちらかによって、このところ、学校運営協議会の役割のところの意味は違ってきちゃうので、もし、今おっしゃったような形で、熟議を重ねた、そこは熟議と使わなくてもいいんですけども、校長が示した運営方針に対して、学校運営協議会が議論した上での話ということになると思います。そこはちょっと、ここはニュアンスが違うと思うんですけども、今引用された文章で分かるか。

教育部長 市民にもお示しをしていく資料でございます。分かりやすい表記、表現にしてまいりたいと思います。

市長 15ページのコミュニティスクールの活性化のところでございますと、これまでの信州型コミュニティスクールとして安曇野市コミュニティスクールの名称で行ってきた、要するに安曇野型、安曇野市コミュニティスクールは県教委が推奨している信州型コミュニティスクールの一環であるというのが現状認識でよろしいですよ。

それで、16ページのところの、「そこで」のところの接続詞の意味がよく分からないんですけども、いずれにしても、これからは、国型のコミュニティ・スクールへ移行を目指す。それはなぜだというと、今までは中学校区でやったのが、今度は17の小中学校で行いま

すということが一つあると思うんですけれども、そもそも、この安曇野市のコミュニティスクール、ACSといった中の地域教育協議会を7中学校区制でやるというのは、県教委における信州型コミュニティスクールの部分を中学校区でやるということをお願いしたんですか。

教育長 今の件につきましては、県教育委員会は、当初、各学校に協議会を設けると。そのスタイルを信州型というふうに呼んでいたんですけれども、長野県内の小中学校全てを信州型コミュニティスクール、100%を目指すという中で、様々な実施自治体の事例が蓄積されてきた中で、私ども、長年培ってきたこの7中学校区での地域教育協議会というやり方がむしろモデル的になるというようなお話もいただいて、いわゆる学校単位ではなくて、複数の小学校・中学校等が一緒になったような形でもいいと、それも信州型として認めようということになって、信州型の一つということで安曇野市もやってきたということでございます。

市長 多分、16ページの「ACSの成果と課題」という箱、箱といますか、四角の下のところに分かりにくいのは、その前段で、多分、学校に関心があるけれども、協力方法が分からない。経験や知識を子どもにもっと伝えておくであって。

この四角の中を読んでいけば分かるんですけれども、四角というのはその図24の中を読んでいけば分かるんですけれども、今までは7中学校区だったのを、16ページの図25の下の上から3行目の「各学校ごとに」とあるのが、新体制のイメージ図が翌ページにあるので、今度は、中学校区ではなくて、「17小中学校でつくる」というのが、ここでは明示されませんね。「各学校ごとに」という言葉だけなんです。

これだと何か、よく分からないというか、分かりにくいところがあって、もし、その国型のコミュニティ・スクールをおやりになるということが明確ならば、こういうところで「各学校ごと」というのを、「17小中学校」とか、あるいは「前段では7中学校区でやってきた」ということを文章の中で明記されたほうが、僕はよろしいと思うんですよ。

その上で、要するに、細分化することによって、もっと地域に密着するので、保護者の方、あるいは地域の方が学校運営に意見を言いやすいということを書くほうがいいと思って、これは僕の感想かもしれませんが、ここ、ちょっと文章の説明が、図と見比べながら言わないと、なぜ、そこでという、このようなちょっと分からないところがあるので、そこはそう思っています。

それで、もう一つ、先ほどの信州型コミュニティスクールに関係するんですけれども、今回、これで安曇野市が国型のコミュニティ・スクールに移行という形になりますよね。信州型コミュニティスクール、県教委、これがそもそも、そういう形でこれからもいくんですか。

県教委、よく分からないですけれども。

つまり、県教委が信州型コミュニティスクールというのをこのまま続けると言っていて、安曇野市は、安曇野型、安曇野市コミュニティスクールの中で信州型コミュニティスクールとしてやっていたんですけれども、これからは国型でいきますというときに、県教委の言っている信州型コミュニティスクールは今後どうなるんですか。

教育長 先ほど、根拠法令として地教行法を引用して説明いたしましたけれども、その中に、国としては、この国型のコミュニティ・スクールへ、令和5年を目途に設置することを努力義務とするという表記がございます。

県教育委員会は、それが設置義務になるかどうかというあたりのところは、非常に国の動向を注視しているというふうにお聞きはしておりますけれども、長野県内も様々な自治体が徐々にではありますけれども、国型に移行しているところはございます。

県教育委員会は、信州型ではなくてはいけないとか、あるいは、国型に移行すべきだとか、そういった態度表明は一切しておりません。それぞれの自治体ごとに判断をし、もし、国型に移行するならば、それへの支援もしていくということで、私どもも県教育委員会と連携を取りながら、このことを進めているところでございます。

市長 教育委員の皆様からお願いします。

横内委員 私たちは、教育長いつもおっしゃっているように、成り行き未来ではなくて、やりたい学校の未来を描いて、令和元年から話合いをしてまいりました。そして、事務局がどのように分かりやすくまとめてくださいました。

児童生徒数は減るけれども、普通学級は減っていくけれども、特別支援学級は増えているという状況も、学校訪問をするたびに、どの校長先生からも心配の声が上がります。この変化は、どの地域でもそうですけれども、よく知る必要があるのかなと思っています。

私は明科に住んでいるんですけれども、子どもが少なくなったよねという話は聞いています。そのことで切実に困っているとか、そのことがとても心配だという声は、実際、あまりないというか、むしろ、一人一人を見てもらっていてありがたいですとか、地域の人との関係がすごく近いとか、そういった意見が多いので、この話合いを進めてきましたけれども、保護者の方とか地域の方々が今の小学校や中学校のこれからの学校について、本当にどう考えているのかということをお聞きしたいなということはずっと思っています。

教育部長 今、横内委員のおっしゃった件でございますけれども、このことは、広く市民の皆様にもしっかり説明をして、ご意見をお聞きしていくということにしてまいりたいというふ

うに思っております。

二村委員 このところ、マスクをしての学校生活が続いておまして、子どもの顔色が見えないということで、子どもたちの、今日も元気かなという健康面であったり、また、いつもと違うなというSOSを見逃さないということで、先生方にはとても注意をいただいています。

その中でも、現場の先生からは、児童生徒が実感することが戻ってきているというお話もありました。子どもたちが明日も元気に学校に行きたいと思えるような生活ができるように応援していきたいなと感じています。

教育現場である学校は、校長先生をはじめとした先生方に任せる。信頼をして任せる。そんな思いであります。

小中連携、小中一貫教育、義務教育学校というような文言が載っていますけれども、小中連携の取組は、先生方の工夫、そして努力によって成果が随分と蓄積されております。ただ、小中連携があったにしても、様々な分野に関わることで、意思決定をすることや、また、意思統一に時間がかかってしまっているのではないかなという思いもあります。

低学年のうちには、個々に応じた指導ができる環境を整える。そして、年齢を重ねるごとに、大きな集団の中でたくましく育っていく環境を整える。最近の個別最適化という言葉もありますけれども、この延長線上には、きっとたくましい子どもが育つ。そして、自分のことを好きになって、他者を思う、周りの子のことを思う、気配りもできてくるのではないかなという思いがあります。

というのは、最近では、兄弟が少ない子どもが多いです。だから、異年齢の交流の中から、思いやりの気持ちや優しい気持ちを持ったり、また、大きなお兄ちゃんやお姉ちゃんたちの様子を見て、学習意欲の向上であったり、そして、いろんなことを想像する力が育っていく。また、一つ、中学生と一緒に楽しく、また、自分の力をつけるための活動を一緒にするとか、いろんな方法があるのかなという思いもあります。

統廃合ありきではなくて、カリキュラムを自由に組める、施設一体型の義務教育学校というのもあります。小中一貫教育と、どちらもいいところがあるという思いがありますが、市全体の中で、地域の方や保護者の方々におかれては、関心を持っているなという様子を見ると同時に、期待もすごく感じているんです。

ですので、この市全体を見たときに、自分の地域は遅れちゃったなとか、後回しにされたというような、そういう出遅れ感や後回し感を感じさせないためにも、できることならば、

両方あってもいいというような柔軟な教育の施策を、また展開していかななくてはいけないなという思いでいます。

教育部長 いろいろ、小中一貫校の利点もお示しをいただいたかなというふうに思います。

小中一貫教育の導入と、先ほど来のコミュニティスクールの構築というのは非常に密接、深く関係がございます。小中一貫教育の中に、どういった子どもを地域としては育てていていただきたいのか、そういう学校への願いというものも、小中一貫教育を通じて、そういった地域の声というものが反映されていけばいいなというふうに思っております。

後段で、いろいろ、出遅れ感のないように、あるいは、両方あってもよいのではというようなご意見につきましては、今後、さらに検討を重ねさせていただきまして、具体的なプランにして、また、ご議論いただければというふうに思っております。

市長 ほかにございますか。

須澤委員 15ページにあります、まず1点、コミュニティスクールについてですが、平成21年度からという、その頃なんです、当時のことを思い出しますと、国が予算をつけて、この組織をつくるようにというふうに言われたのがスタートなんです。安曇野市学校地域支援本部事業、これがスタートしたんです。

途中で国は予算を打ち切ったんです。それと同時に、この組織をやめた地域もかなりあったんです。その中で、安曇野市は、市の予算をつけて、今度はスクールサポート事業、名前をこういう名前にして継続をした。安曇野市では、中学校単位でそれを実施していこうということで、最初は県下でモデル的なスクールサポート事業だったようです。

何か、後追いで、信州型コミュニティスクールという名前がたしか出てきたように記憶しています。それが現在に至っていると、私は了解しております。

1点は、コミュニティスクールのこれまでにについての私の記憶を申し上げた次第です。

次に、2点目でございますが、今、私は、各学校は、特色を出さなければ駄目な時代だろうと思っております。どの学校も同じ内容をやっていかなくなります。つまり、児童生徒にとって行きたい学校への教育だったり、親御さんも、あの学校に行かせたいと。先ほど出ましたように、穂高西中と東中、その他、豊科にも、豊科地域の他の中学校と境を接している場合は、旧町村を越えて中学を選んでよくなったという現実もございます。

つまり、今現在、松本市に小中一貫校と中高一貫校があります。そこへお子さんを出しているお宅も何軒かあるわけです。何軒どころかも二桁以上あるわけですので、そういうのは私は脅威だと捉えているんです。

ですから、現場では、うちの学校に来てもらいたいと。それには、こういう内容で学校はやっていますよという特色をアピールする時代だと思うんです。私は、今回のコミュニティ・スクールを国型に変えて、地域の皆さんが意見を学校にも言えるというのは非常に大事なことだと思っています。

それだけではなくて、もう一つ大きいのは、6・3制にこだわらない。学年を10歳で区切ってしまうと、もう小学校から中3までを一つのものとして学年を幾つかに、段階で幾つかの学年に分けて、教育課程をつくっていただいたいというふうに考えております。

そういう形で、魅力ある、特色ある学校をつくり出して、同時に、特に小規模な学校に一番危惧されるのが、学力補償ということになると思います。職員が非常に少ない状況になりますから、二つの教科を1人の先生がやるという事態も生じてきていると思います。そういうものを避けたり、今、小学校で英語も本格的に始まっておりますから、例えば、英語というような教科を6・3制を取り払って、いわゆる中学3年の段階では、習熟度別の授業を取り入れるとか、そういった工夫も小中一貫校にすることで可能になってくるんじゃないか、こんなふうに将来、私たちも夢見ているところでございます。

羽田野委員 今、須澤委員さんが言われたことに準ずるところなんですけれども、これからの学校運営協議会というものが各学校にできるということになると、やはり、これからの学校運営については、この協議会がすごく大きなウエートを占めるということになると思っています。

それによって、学校自体の特色ですとか魅力というのがやはり変わってくるんだらうなということと、それぞれ、責任とか権限を協議会は持つわけなので、非常に大変な役割になってくるのかなというふうには感じているところでございます。

あとは、この協議会の中身についての周知を、昨日の会でも言ったんですけれども、しっかりと地域の皆さん、それから教員、先生、それから保護者の皆さんに理解をしていただくということが非常に重要になってくるのではないかなと思っています。

あと、やはり、須澤委員さん言われたとおりに、やっぱり学校の魅力が変わってくる可能性があるんで、この中学に行きたいなと思うのが、どこか違う通学区のところから出てくる可能性もあるんじゃないかなというふうに感じているところでございます。

教育部長 本当にいろんなご意見、ありがとうございました。

小中一貫教育という中で、先進事例でいきますと、4年、2年、3年で課程を組み替えているところがございます。いわゆる小4、10歳の壁と言われるようなことに対応したり、あ

るいは、中1ギャップと言われるようなものに対応するためのカリキュラムを組まれているところもございます。

また、昨今では、文部科学省から、授業時数の1割は申請に応じて変更を認めるという特例校制度というものが打ち出されてきております。こういった国からの提示につきましてもしっかりと考えながら、具体的な計画を立ててまいりたいというふうに思っております。

いろいろありがとうございます。

教育長 様々、ご意見いただきましたので、ご指摘いただいた点については、さらに検討して、修正も加えますけれども、大筋、ここでお認めいただければありがたいかなと、このように思っております。

市長 皆様、よろしゅうございますか。

そうしますと、今、橋渡教育長からお話がありましたように、今日の皆様のご意見を取り入れて、一部修正を含めた上で、将来構想案としては、基本的にこれをここにて確定したいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

◎安曇野らしい教育の実現について

市長 それでは、続きまして、(2)の安曇野らしい教育の実現について、事務局から説明をお願いいたします。

教育長 ただいま、将来構想が策定に向けて力強いお言葉をいただきました。今後は、これを基本計画といたしまして、次の段階、行動計画と呼ばれるものに移っていきたいわけですが、重点3項目に掲げましたそれぞれについて、合計8つの行動目標の視点というものを事務局で作成してみました。

これから、それぞれ担当したところから提案内容を簡単にご説明いたしますので、それについて、ご協議をいただければありがたいと思います。

それでは、まず、視点1について、私のほうから説明させていただきます。

「視点①地域と学校の連携、協働体制づくり」資料により説明。

生涯学習課長 (補足説明)

教育長 では、続けて、視点2から、以降、お願いいたします。

教育指導室長 「視点②地域の職業人から学ぶキャリア教育」、「視点③切れ目ない成長と自立の支援」、「視点④成長の土台づくりと体力向上」、「視点⑤小中一貫型小学校・中学校、

義務教育学校」、「視点⑥安曇野を学ぶ時間の整理から「安曇野の時間」（仮称）へ」、
「視点⑦副読本「安曇野学の手引き」（仮称）」資料により説明。

文化課長（視点⑦ 補足説明）

教育指導室長 「視点⑧安曇野らしい食・農体験」資料により説明。

市長 ありがとうございます。

今の説明、多岐にわたっておりますけれども、皆様からのご意見をお伺いしたいと思いま
すので、よろしく願いいたします。

付け加えさせていただきますけれども、視点2のところのキャリア教育、非常にいいこと
だと私は思っております。

伊那市の中学生キャリアフェスの視察をされたとございますけれども、上伊那郡は8年前
から、この前例としまして、郷土愛プロジェクトというのをやっております、私、2回目
から7回目まで全部出ておりましたけれども、いわゆる父兄の皆さん、それから、地域の企
業の皆様、それから、もちろん行政、みんな入りまして、キャリア教育について先進的な事
例ということで、全国的にも注目されておりました。多分、今年あたりから下伊那もそれ
を取り入れるということでやっておりますので、是非、そういうことを参考に進めていただ
けたらという具合に思っております。

教育指導室長 また、是非、そういったことを教えていただきながら、安曇野としてどうい
う形にしていくかというところを進めていかればよいなと思っております。よろしく願い
いたします。

市長 それから、すみません。質問なんですけれども、集団登山は、今、中学生はやっていな
いんですか。ちょっと、現状、存じないんですけれども。

教育指導室長 集団登山は、各校では計画しておりますが、ここ2年ほど、新型コロナウイルス
の影響がございまして、縮小等を余儀なくされているのが実情であります。

ただ、やっぱり目的地が、私が小中学生の頃は、全員が常念岳ですとか、燕とか、地元の
山に登るというようなことがありましたが、目的地を変更していきまして、日帰り登山が可能
なところすとか、または、ロープウェイ等を使って行ける範囲だというような形で、地元
の山を全ての学校に登っているかという、そういう状況ではなくなっているというこ
とであります。

今年度については、一切、できなかったというのが実情でございます。

市長 皆さん、是非、ご意見を賜りたいと思います。

二村委員 私、安曇野市の農家民泊事業に参加をしております、関東や関西方面から、教育旅行の中学生・高校生を受け入れています。ここ2年は受入れはありませんけれども、できませんけれども、以前の受入れの中で、温泉の入り方が分からない子どもがいたりとか、大きな声を出していいんですかと心配するような声を上げる子どもたちがいたことに、ちょっとびっくりしました。

それに比べると、この安曇野市の子どもたちはとても環境に恵まれているなと思います。外を歩くだけで、アルプスの山並みが見えたり、夕焼けを見たりということで、五感を使って、本当に自然教育が自然とついてくるという、とてもすてきなところにいると思います。

その中でも、学校で、地域の歴史や人物、自然についての学習に取り組んでいますけれども、その学習の中で、環境だったり、温暖化であったり、エコであったり、リサイクルであったり、命の尊さだったり、とても多岐にわたるような学習を続けています。そして、どんどん思いが膨らんでいく。そして、深めている様子が見られます。

その学校だけではなくて、地域や、また、全市的に共通して取り組むような内容が出てきているのではないかなというふうに感じています。市全体で関心を持って進めればいいなという要望も少し入れて、発言させていただきました。

あと、もう一つ、よろしいでしょうか。

小学校のスクールカウンセラーをしている先生とちょっとお話をする機会がありました。子どもを取り巻く環境はコロナでとても変化をしてきているということで、その変化に対応することが苦手な子どもであったり、また、学校にちょっと行き渋っている子どもが出てしまったりということで、子どもさんがいるお母さんは、自分の子どもなのに、手に負えないというふうに思っている家庭もあるというお話を伺いました。

いとおしい子どもの命を、本当に大切にしてほしいなという思いが強くありまして、病気というのが突然やってくる。それに自分が気づかないうちに突然発症したりすることもあると思います。

目に見える病気ではない、精神的な疾患についてですけれども、学校教育のカリキュラムの中では、精神的な疾患について知る機会はありません。でも、発症するのは14歳だという検証もされています。本人、そして、家族、保護者、先生方、周囲も気づいていないことが孤立を深めてしまうのではないかなと思います。まずは、児童や生徒が安心して相談できる場所の確保、弱音を吐けない子どもたちにSOSの出し方を伝えたいというような、大人が何かできることがもっとあるのではないかなと考えております。

これは、教育委員会だけではなく、官民学と連携をして、安心して生活できるふるさと安曇野に今以上になるようにと願っています。

市長 ほかに。

須澤委員 今のご説明の目標の視点4番です。先ほど、市長からもご質問、ご発言がありました集団登山。これが、コロナ禍になる前から、もうやめてしまっているという学校が出てきているんです。これは、なぜかと考えますと、やはり学年のクラス数が少なくなっている学校が出現してきている。つまり、2クラスということになりますと、学年所属の職員が4人か5人になってしまいますから、実質、登山に何十人も連れていくには、先頭、真ん中、後ろ、そして、いざというときに付いて下山をする職員と考えますと、もう5人くらいは欲しいですね。

もし、ある学年が登山に行きますと、学年の職員だけでは足りなくて、他学年からも応援が必要になってくると思うんですよ。これは、現状のところ、その学年の教員が他の学年の授業も持っていれば、その他の学年での授業もできないし、応援が他学年から来れば、その学年の授業も成り立たないということで、非常に小規模化の問題点もここに一つ現れてきているということを、私は、集団登山に行っていないところから憂慮しているところです。

現実のところ、高校でも、集団登山がもうほとんど行われなくなると、大町の高校はやっているんですけども、松本市はやっていないとなっています。せっかくのアルプスを望む、特にこの安曇野の児童生徒たち、一度もアルプスに登らずに育ってしまった。そして、中に、この地域を離れて、他地区の学校へ行ったとしますと、安曇野、大きく言って長野県から巣立ったという特色が、それを持たずに成長していくというふうになってしまう。

やはり、この重点目標の4番の文面としては非常にあっさりしていますが、集団登山ができる、できないという観点からも、元に戻れば、小中一貫教育になっていく、もしくは、さらには義務教育学校になれば、小学校の先生も、今度は集団登山の応援に頼むなんていうことにもなってくると思います。いろいろな利点が小中一貫教育の中に含まれていると、私は認識してございます。

市長 ありがとうございます。

教育長 行動目標の視点ということで、8つの項目にわたりまして、夢や理想に近いものも含めて書かせていただいて、提案をさせていただいたわけでありますけれども、実際、この幾つかを担っていくのは学校の先生方でございます。学校では、今、このコロナ禍で、様々な

ことができなくなっている。そんな中で、何とか工夫をし、ただやめにするのではなく、できる方法は何かということ知恵を絞りながら奮闘してきているという、そういう現実がございます。

子どもたちも非常に多様化して、幾つか課題として挙げられている中にも、体力であるとか、自立の力であるとか、少し低下していないかという懸念も幾つかある。そういう中で、市教育委員会として、過去やってきたことに戻れというようなことを高飛車に言うつもりは全くないわけです。やはり、学校現場で頑張っている先生方とともに、今ある子どもたちの現実をしっかりと見て、そして、本当にあるべき望ましい姿に、どうしたら一緒になって育ていけるかということが非常に大事なかなと思います。

したがって、行動目標ですから、今後、いつまでに何を達成するかというような数値的なものも掲げていかなければいけないかと思うんですけれども、例えば、かつて、常念岳、燕岳、ここに7校全て登っていたわけですが、何年までにここに登るというような目標を立てるということではなくて、ここに生まれ育ってから、どうやったら中学1年、また、2年になったら、アルプスに登れるくらいの力をつけていくのかというようなことを一緒になって考えて、育てていく。これは家庭もそうだし、地域もそうだし、みんなで支え合って、そうやって育てていかないと、結局は、安曇野を背負う未来の子どもたちが育っていかないのではないかなと、そういう気持ちであります。

ですので、ここに掲げさせていただいた視点を、今後、どういうふうの実現させていくかということについては、まずは私どもがたたき台を示しながら、現場の教員の皆様ともしっかりと議論をしながら詰めていく問題ではないかなと、そんな認識であります。

ちょっと私見も交えてのことでございますけれども、お話しさせていただきました。

市長 ありがとうございます。

ほかにございますか。

(発言する者なし)

市長 特になければ、今、説明がございました将来構想を踏まえた行動計画の策定に向けてということに承認して、進めてもらいたいということになりますが、お願いします。

◎その他

市長 本日の議事について、予定されたものは以上でございますけれども、その他で、教育施

策等、全体を通じまして、ご提言のある方はご自由にお願いしたいと思います。

(発言する者なし)

市長 よろしゅうございますか。

それでは、本日の総合教育会議の協議事項につきましては以上とさせていただきます。

貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

◎閉 会

教育部長 以上をもちまして、本日の会議事項は全て終了いたしましたので、これにて閉会とさせていただきます。

大変、皆様、お疲れさまでございました。ありがとうございました。